

## サーベイランスの諸問題（特に未回収問題と低剖検率）について

研究分担者：塚本 忠 国立精神・神経医療研究センター病院 神経内科

### 研究要旨（サーベイランスの諸問題（特に未回収問題と低剖検率）について）

わが国では 1999 年から、全国で発症したプリオン病のサーベイランス事業を行っている。悉皆的な調査を目指しているが、プリオン病発症の届け出に応じてサーベイランス事務局から主治医にサーベイランス調査票を送付依頼したにもかかわらず記載したものが事務局に返送されていない未回収ケースが少なからず存在する。また、多くの症例では、発症後、短時間で死に至ることが予想されるが確実な診断に必要な剖検・病理的探索が行われている例は少数である。こうした、調査票の未回収率、剖検数の低率の原因を探り、改善策を検討する。

### A. 研究目的（サーベイランスの諸問題（特に未回収問題と低剖検率）について）

サーベイランス事務局に届けられたプリオン病発症の情報の数をデータベースから抽出し、事務局から主治医に送付依頼したサーベイランス調査票の数、依頼したにもかかわらず記載したものが事務局に返送されていない未回収例の数を抽出する。

また、調査票の未回収率、剖検数の低率の原因を探り、改善策を検討する。

### B. 研究方法

国立精神・神経医療研究センターに設置してあるプリオン病サーベイランス事務局にある、調査票送付、返送受付の確認ファイルをもとに 2011 年から 2015 年までの未回収率・未回収症例数を計算した。

剖検率については、毎年 2 回開催されるサーベイランス委員会の検討結果（診断結果）をまとめた自治医科大学中村好一先生の統計を使用した。

**（倫理面への配慮）**

サーベイランス研究は当センターの倫理審査委員会で承認されており、個人を識別できる情報は含まれていない。

### C. 研究結果

2001 年から 2015 年の未回収数が多いのは、症例数も多いブロック・都道府県であった。すなわち関東・近畿ブロックであった。

プリオン病（ほぼ確実もしくは疑いがある）とサーベイランス委員会で診断された症例の剖検数は、プリオン病死亡者数 2469 名に対して剖検実施者 356 例であり、剖検率は 14%であった。特に孤発型 CJD では 1957 例の死亡者数に対して、剖検実写数 245 例であり、13%にとどまった。

### D. 考察

サーベイランス調査票未回収例が多いブロックは症例数が多い（総人口数も多い）ブロックであったが、都道府県で詳細を見ると、必ずしもその回収率と症例数は比例していなかった。さらに回収率が低い都道府県は毎

年低い傾向があり、地域の担当専門医の調査の負担の軽減を考慮したり、何らかのインセンティブにあたるものを作り上げたりするなどの工夫が必要と考えられた。また、事務局から、未回収例に対する調査票提出の依頼を繰り返す(リマインド)ことも効果があることが分かった。

剖検率については、諸外国、特に欧米では約 20-30%のところが多く、フランスでは 50-60%である。わが国の現状の剖検率の低さは診断精度にかかわりかねない問題である。患者家族や主治医への剖検の意義・必要性に対する理解を高めるためのパンフレットの作成、患者の転院で主治医が替わっても委員会が追跡できるように、自然歴研究との一体化を推進する工夫(コンソーシアム JACOP では、CRC(コーディネーター)が患者の主治医とともに患者家族に患者の病態の情報を定期的に聴取している)などが求められる。

また、剖検施設を増加することが困難な場合はセンター化も推進する必要がある、新しく構築された AMED の日本ブレインバンク・ネットワーク、日本神経病理学会ブレインバンク委員会、同プリオン病剖検・病理検査推進委員会と協力して、剖検率の上昇を目指すことが重要である。

## E. 結論

サーベイランス調査個人票の未回収例・未回収率を低下させるには、サーベイランスの調査システムにも改良が必要であり、その剖検率を上昇させるためにも、自然歴調査との一体化が必要である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 塚本 忠 . 臨床心理検査と認知症尺度 . Clin Neurosci 34(9) : 1001-1006, 2016
- 2) 福本 裕、望月 規央、三山 健司、中川 栄二、塚本 忠、村田 美穂、水澤 英洋 . 重症心身障害児(者)の肺炎における口腔細菌の潜在的病原性について 培養と分子生物学的解析による検討 . NEUROINFECTION 21(2) : 223, 2016
- 3) 塚本 忠、高橋 裕二、村田 美穂、水澤 英洋 . 2010 年以降の 5 年間での当施設でのプリオン病患者の受診に関する統計 . NEUROINFECTION 21(2) : 231, 2016
- 4) 塚本 忠、水澤 英洋 . 日本におけるプリオン病サーベイランス . 神経内科 84(3) : 209-211, 2016
- 5) 塚本 忠 . DLB とその他の疾患の鑑別診断 認知症を伴うパーキンソン病(PDD)とレビー小体型認知症(DLB)の整理 . 老年精神医学雑誌 27(増刊 I) : 109-114, 2016

### 2. 学会発表

- 1) Tsukamoto T. Human Prion Diseases Surveillance and Registration System in Japan. PRION2016, Tokyo, May 11-12, 2016

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし